

## 協会レビュー 2019 年第 4 号

### 協会での取り組み

参加者は「都市の可視化」をパソコン上で体現しました！

## 「多様なデータを活用した都市計画研修」開催しました

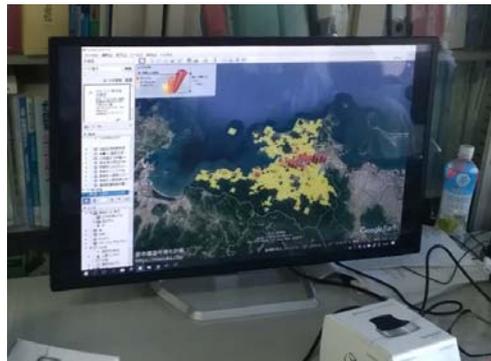
7月17日に協会会議室において、多様なデータを活用した都市計画研修が開催されました。

近年、都市計画基礎調査をはじめとした統計データや、IT技術によるビックデータなど、都市の動向を表すデータがパソコン上で処理しやすい形式で入手しやすくなるとともに、GISソフトなどを活用して空間的に可視化できる技術も進んできています。

これらのデータを活用した操作技術は、日常業務における都市構造の分析や、関係者間での空間的な認識の共有を図る際などにおいて非常に有益であることから、都市計画コンサルタントとして求められるスキルを習得していただくために、今年度初めて研修を開催したものです。

当日は午前と午後にわたり、都市計画関連情報を活用した都市の分析に関する講義と、実際にパソコンを操作し、地図情報上でデータを表示して都市構造を可視化する実習が行われました。

これまでにないタイプの研修が開催されたこともあり、編集チームも講義に同席させていただき、様子を取材させていただきました。(編集チーム 津端)



### 研修の様子と感想

研修当日、編集チームからは、国土交通省都市再構築政策室の赤星企画専門官が講師を務められた「都市構造可視化を活用したまちづくりの実習」の講義にお邪魔しました。

参加者は15名で、テーブル上には参加者に持参いただいたパソコンと、当日支給された3Dマウスがセットされていました。協会が開催する他の講習会とは異なる雰囲気でした。

参加者は3テーブルに分かれ、赤星専門官のほか、各テーブルにファシリテーターが配置され、パソコン上での操作手順を逐一確認しながら進行了ました。



■ 円筒状の形をした3Dマウス  
(パソコン手前)

実習では、ファシリテーターの説明のもと、参加者は GoogleEarth の起動、市町村境界や交通網などの表示、ストリートビュー表示、建物の 3D 表示などの操作を自ら行いました。さらに、「都市構造可視化計画」のウェブサイト（福岡県、建築研究所、日本都市計画学会都市構造評価特別委員会が運営）を GoogleEarth と連動させて、人口メッシュ分布を 3D（棒グラフ）で地図上に表示させるなど、「都市の概況を見せる操作」にもチャレンジしました。

都市構造可視化計画のウェブサイトには、国勢調査、事業所・企業統計調査、パーソントリップ調査、国土数値情報などのメッシュデータが活用されており、GoogleEarth 上で表示することで、都市における人口や産業、交通などの動向を場所と連動して認識できるものです。このため、立地適正化計画をはじめ、都市構造と人口などの動向を直感的に把握する必要のある検討において、非常に有効なツールと言えます。分析ツールとして活用できるほか、プレゼンテーションにも積極的に活用したいツールとも感じました。

今回の研修は、募集後早々に定員が埋まりました。協会では、会員企業からのご意向を踏まえながら、今後は同様の研修を他会場で開催することも検討しているようです。参加ご希望の皆様、ご期待ください！



■ 国交省赤星専門官による講義



■ GoogleEarth のセットアップ作業



■ ファシリテーターの指示のもと、自ら操作を体現

#### 協会レビュー 2019年第4号（令和元年7月発行）

発行元 一般社団法人都市計画コンサルタント協会

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目一番一八号 ハイツニュー平河3F

Phone 03-3261-6058 Fax 03-3261-5082 E-mail info@toshicon.or.jp

Website <http://www.toshicon.or.jp/>

編集責任者 須永和久